

こどもの病気対策法^⑬

—ヒトメタニューモウイルス感染症—

小宅医院 小宅民子

ヒトメタニューモウイルス（hMPV）は以前よりヒトの間で流行していましたが、2001年に呼吸器感染症の原因ウイルスとして新しく発見されました。hMPV感染は大部分が風邪で終わりますが、乳幼児や高齢者では重症化して気管支炎、細気管支炎や肺炎などを起こすことがあります。生後6ヶ月頃から感染して、2歳までに50%、10歳までにほぼ全員が感染し、その後も繰り返し感染することが知られています。

潜伏期間は3〜6日です。くしゃみや咳による飛沫感染やウイルスのついた手や鼻に触つてうつる接触感染でひろがります。1年を通して流行しますが、3月〜6月に多いとされています。多くは咳、鼻水、発熱などの風邪の症状で終わりますが、重症化して気管支炎や肺炎になると、高熱、喘鳴（呼吸時にゼイゼイ、ヒューヒューいう）、呼吸困難に陥ります。症状はRSウイルス感染症と似ていますが、流行する季節が異なること（RSウイルス感染症は冬に流行）、好発年齢がRSウイルスでは1歳未満に比べhMPVは1歳以上のことが多いとされています。診断は鼻の中に綿棒を入れて検査する迅速診断があります。ただし、この検査は6歳未満でレントゲン検査や聴診所見によつて肺炎が強く疑われる場合のみ適応になります。hMPVに対する特効薬はなく、基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。水分補給、睡眠、栄養、保温などに気をつけ、安静にして回復を待ちます。また、hMPVに対するワクチンはなく、感染の予防が重要です。マスクの着用や、手洗い、うがい、子どもが触れるおもちゃやドアノブなどはこまめにアルコール等で消毒しましょう。

ヒトメタニューモウイルス感染症の5つのポイント

- ・ 症状は咳、鼻水、発熱など
- ・ 悪化すると気管支炎、細気管支炎や肺炎になることがある
- ・ 症状はRSウイルス感染症に似ているが、流行する季節、好発年齢が異なる
- ・ 特効薬はない（水分補給、安静が重要）
- ・ 予防は手洗い、うがい、アルコール消毒

